

令和6年度第1四半期における運用状況等

(令和6年4月～令和6年6月)

独立行政法人農業者年金基金は、年金資産の安全かつ効率的な運用を行っています。令和6年度第1四半期における運用状況を「独立行政法人農業者年金基金中期計画」に基づき公表いたします。

当基金が行っています年金資産の運用においては、確定拠出型の年金制度であることから、原則、資産を時価で評価しなければならないため、金融・経済情勢等の運用環境の影響により、短期的には、運用成績が変動しマイナスになることがあります。長期的な運用により安定した運用収益を上げることが期待されます。

今後とも、安全かつ効率的な運用を徹底して参りたいと思いますので、皆様の御理解を賜りますようお願い申し上げます。

【参考】

独立行政法人農業者年金基金中期計画（令和5年3月23日認可）－抜粋－

2 年金資産の安全かつ効率的な運用

(4) 運用の透明性の確保

年金資産の構成割合、運用成績等については、四半期ごとにホームページで情報を公表するとともに、被保険者等
に対して、毎年6月末日までにその前年度末現在で評価した個々の被保険者等に係る運用結果を通知する。

目 次

	頁
1. 令和6年度第1四半期（令和6年4月～令和6年6月）における運用環境について	1
2. ベンチマーク・インデックスの推移	2
3. 令和6年度第1四半期（令和6年4月～令和6年6月）におけるポートフォリオ別の運用状況 . . .	3
（参考）用語の説明	5

1. 令和6年度第1四半期（令和6年4月～令和6年6月）における運用環境について

（4月）

外国債券は、米経済指標において雇用の強さや根強いインフレ指標が確認されると、早期利下げ観測が後退し、金利は上昇（債券価格は下落）しました。

外国株式は、米金利の利下げ観測の後退や中東情勢の緊迫化から株価は一時下落したものの、米ハイテク株が好決算となったことや値ごろ感から市場心理は好転するとともに、円安による影響を受けて、月末時点では前月末対比でやや上昇しました。

国内株式は、軟調な米株式に連れて株価は一時下落しましたが、日銀による緩和的な政策が続くとの見方が支えとなり、下落幅は縮小しました。

国内債券は、円安を背景に日銀の追加利上げが意識され金利は上昇（債券価格は下落）しましたが、その後実施された日銀金融政策決定会合では現状維持が決定され、金利上昇幅は縮小しました。

なお、為替は米長期金利の上昇を背景として日米金利差が拡大したことから、ドル円は一時約34年ぶりとなる160円台まで円安が進行したものの、政府・日銀による為替介入により一時154円台まで戻し、月末時点では157円台となりました。

（5月）

外国債券は、米経済指標の結果を受けて利下げ期待が高まり、金利は低下（債券価格は上昇）しました。

外国株式は、米金利の低下が好感され株価は上昇しました。その後は半導体銘柄の好決算が相場の支えとなりましたが、下旬は米金利の高止まりが意識され、景気後退懸念から上げ幅を縮小しました。

国内株式は、決算結果が好感された他、日銀による金融政策修正への思惑から銀行株を中心に株価は上昇しました。

国内債券は、4月の日銀金融政策決定会合の「主な意見」において追加利上げに向けた意見があった他、日銀の国債買入が減額されたことを受けて金利は上昇（債券価格は下落）しました。

なお、為替は政府・日銀による為替介入により大幅に円高に振れました。その後は日米金利差が今後も高止まりするとの見方から円安基調となりましたが、勢いは続かず、月末時点では前月末対比でやや円高となりました。

（6月）

外国債券は、米経済指標の下振れから金利は低下（債券価格は上昇）しました。

外国株式は、米半導体大手株が買われた他、出遅れ感のあった景気敏感株などが買われて株価は上昇しました。

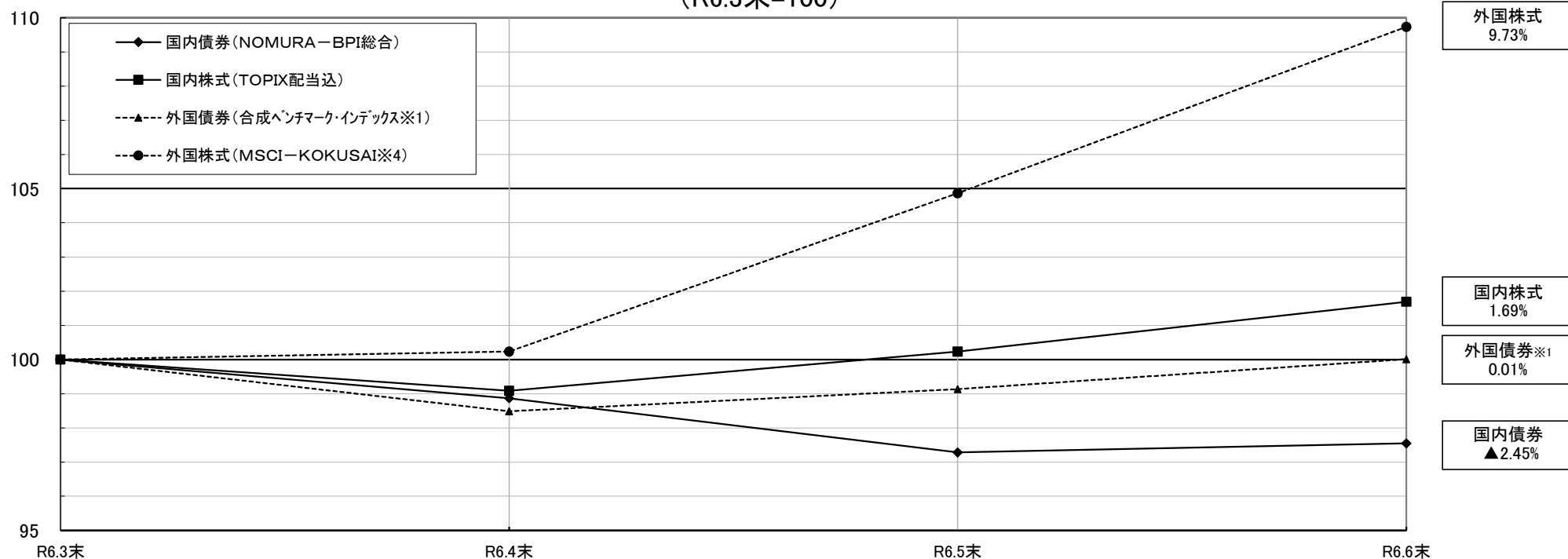
国内株式は、前半は方向感に乏しい推移となりましたが、後半は米株高や円安の進行により株価は上昇に転じました。

国内債券は、日銀金融政策決定会合で日銀が国債買入れ減額の具体策決定を先送りしたことを受けて需給不安が後退し、金利は低下（債券価格は上昇）しました。

なお、為替は米長期金利が低下したため円高が進行したものの、その後はFRB高官から早期利下げに慎重な発言が相次いだことや日銀が国債買入れ減額を先送りにしたこと、日米の金利差が拡大した状況が長引くとの見方が強まり、一段と円安が進行しました。

2. ベンチマーク・インデックスの推移

(R6.3末=100)



(参考)市場インデックス

区 分	令和6年3月末	令和6年4月末	令和6年5月末	令和6年6月末
国内債券 (新発10年国債利回り)	0.725 %	0.870 %	1.070 %	1.050 %
(NOMURA-BPI総合)	366.497 ポイント	362.353 ポイント	356.531 ポイント	357.511 ポイント
国内株式 (日経225)	40,369.44 円	38,405.66 円	38,487.90 円	39,583.08 円
(TOPIX配当込)	4,699.20 ポイント	4,656.27 ポイント	4,710.15 ポイント	4,778.56 ポイント
外国債券 (米国10年国債利回り)	4.201 %	4.681 %	4.500 %	4.397 %
(独10年国債利回り)	2.298 %	2.584 %	2.664 %	2.500 %
(FTSE世界国債インデックス※2)	337.737 ポイント	329.349 ポイント	330.680 ポイント	331.792 ポイント
(FTSE世界国債インデックス※3)	587.421 ポイント	595.623 ポイント	604.135 ポイント	619.363 ポイント
外国株式 (NYダウ)	39,807.37 ドル	37,815.92 ドル	38,686.32 ドル	39,118.86 ドル
(独DAX指数)	18,492.49 ポイント	17,932.17 ポイント	18,497.94 ポイント	18,235.45 ポイント
(MSCI-KOKUSAI※4)	8,067.185 ポイント	8,086.777 ポイント	8,458.059 ポイント	8,851.883 ポイント
為替レート (対ドル)	151.35 円	157.37 円	157.14 円	160.86 円
(対ユーロ)	163.46 円	168.26 円	170.60 円	172.41 円

※1 市場インデックスを基に基金において試算 (FTSE世界国債インデックス (除く中国・日本、為替ヘッジあり) 75%、FTSE世界国債インデックス (除く中国・日本、為替ヘッジなし) 25%)。

※2 FTSE世界国債インデックス (除く中国・日本、為替ヘッジあり)

※3 FTSE世界国債インデックス (除く中国・日本、為替ヘッジなし)

※4 MSCI-KOKUSAI (源泉税控除前、配当再投資、為替ヘッジなし)

3. 令和6年度第1四半期(令和6年4月～令和6年6月)におけるポートフォリオ別の運用状況

① 被保険者ポートフォリオ

令和6年度第1四半期(令和6年4月～令和6年6月)の被保険者及び待期者に係る資産の運用状況は、次表のとおり、令和6年6月末時価総額は2,933億61百万円となり、第1四半期の総合収益は31億19百万円となりました。また、修正総合利回りは1.06%となりました。

(単位:百万円、%)

資 産	令和5年度末 時価総額	令和6年6月末 時価総額	時価総額構成割合	第1四半期 の総合収益	(参考) 修正総合利回り
国内債券	138,188	140,412	47.9	-1,783	-1.25
自家運用	67,741	66,632	22.7	55	0.08
外部運用	70,447	73,781	25.2	-1,838	-2.44
国内株式	45,915	43,108	14.7	712	1.66
外国債券	55,847	56,725	19.3	2	0.00
外国株式	50,805	47,183	16.1	4,161	9.67
短期資産	1,057	5,933	2.0	28	—
合 計	291,813	293,361	100.0	3,119	1.06

- (注) 1. 政策アセットミクスは、国内債券50%(±5%)、国内株式15%(±4%)、外国債券20%(±2%)、外国株式15%(±4%)としています(カッコ内は乖離許容幅)。なお、4月上旬の政策アセットミクスの変更により、資産の入替えを実施しました。
2. 国内債券のうち自家運用(満期保有目的)については、償却原価法(定額法)を適用しています。
3. 令和5年度末時価総額は、令和5年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の1,057百万円は、決算整理前の額4,516百万円から被保険者危険準備金ポートフォリオへの繰入額3,459百万円を減算した額です。
4. 令和6年6月末時価総額(合計)は、令和5年度末時価総額(合計)291,813百万円に、総合収益等を加算し、受給権者ポートフォリオへの繰入額等を減算した額293,361百万円となりました。
5. 単位未満を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。(以下同じ。)

② 受給権者ポートフォリオ

令和6年度第1四半期(令和6年4月～令和6年6月)の受給権者に係る資産状況は、次表のとおりとなっており、年金給付等の原資は確保されています。

(単位:百万円)

資 産	令和5年度末 時価総額	令和6年6月末 時価総額
国内債券	106,699	105,546
短期資産	1,767	2,692
合 計	108,466	108,238

(注) 令和5年度末時価総額は、令和5年度決算整理後の額となっています。なお、短期資産の1,767百万円は、決算整理前の額2,502百万円から受給権者危険準備金ポートフォリオへの繰入額等735百万円を減算した額です。

③ 被保険者危険準備金ポートフォリオ及び受給権者危険準備金ポートフォリオ

令和6年度第1四半期(令和6年4月～令和6年6月)の危険準備金に係る資産状況は、次表のとおりとなっています。

(単位:百万円)

ポートフォリオ	区 分	資 産	令和5年度末 時価総額	令和6年6月末 時価総額
被保険者危険準備金 ポートフォリオ	付利準備金	短期資産	9,224	9,226
	調整準備金	短期資産	4,633	4,570
	合 計		13,857	13,796
受給権者危険準備金 ポートフォリオ	調整準備金	短期資産	5,698	5,810

(注) 令和5年度末時価総額は、令和5年度決算整理後の額となっています。なお、被保険者危険準備金ポートフォリオの短期資産の合計13,857百万円は、決算整理前の合計額10,398百万円に被保険者ポートフォリオからの受入額3,459百万円を加算した額です。また、受給権者危険準備金ポートフォリオの短期資産の5,698百万円は、決算整理前の額4,962百万円に受給権者ポートフォリオからの受入額736百万円を加算した額です。

用語の説明

○ ポートフォリオ

資産を運用する際の保有資産の組合せのこと。また、組み合わされた運用資産全体を指すこともある（同義語 ファンド）。

○ 総合収益

利息、配当金や売買損益といった実現損益だけではなく、評価損益や未収収益を加味した収益のこと。

○ 修正総合利回り

総合収益を、運用元本に時価の概念を加味した残高で割って算出した収益率のこと。運用成績の開示に広く用いられている。

修正総合利回り = (総合収益) ÷ (運用元本平均残高 + 前期末評価損益 + 前期末未収収益)

○ ベンチマーク・インデックス

各資産の収益率を評価する基準となる指標のこと。

以下は、被保険者ポートフォリオにおけるそれぞれの資産のベンチマーク・インデックスとして、当基金が採用しているものである。

* NOMURA-BPI総合

野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社が作成している国内債券市場の指標。国内で発行された残存1年以上の固定利付円建債（A格相当以上）から構成される。国内債券市場の代表的な指標である。

* TOPIX(配当込)

東京証券取引所が算出している国内株式市場の代表的な指標である。構成銘柄については令和4年4月の東証市場再編により、令和7年1月までに旧東証1部上場全銘柄から東証上場銘柄のうち流通時価総額 100 億円以上の銘柄へと段階的に移行することとされている。

* FTSE世界国債インデックス

FTSE Fixed Income LLCが作成している外国債券市場の指標。主要各国が発行する国債から構成される。外国債券市場の代表的な指標である。

当基金では、次のとおりインデックスを採用している。

FTSE世界国債インデックス(日本、中国を除く。円換算。ヘッジあり)を 75%及びFTSE世界国債インデックス(日本、中国を除く。円換算。)を 25%により合算したもの

* MSCI-KOKUSAI(源泉税控除前、配当再投資、為替ヘッジなし)

MSCI Inc.が作成している外国株式市場の指標。主要各国(除く日本)の証券取引所上場銘柄から構成される。外国株式市場の代表的な指標である。